

＜キーン・ソード25＞米空軍と自衛隊、C-17輸送機への搭載検証を実施 *KS25: USAF, JSDF conduct C-17 static loading test*

February 18, 2025

By 2nd Lt. Christopher Winters, Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

在日米海軍厚木航空施設発—2月3日から4日にかけて、陸上自衛隊、航空自衛隊、米空軍から参加した約60人が、海軍厚木航空施設でC-17グロブマスターIIIへの搭載検証を実施した。

この搭載検証は、昨年10月23日から11月1日に国内で実施された日米共同訓練「キーン・ソード25」の一環として行われた。

キーン・ソードは、最新の装備と手順を現実的な状況下で演習し、日米の相互運用性を高めるとともに、部隊の即応態勢を検証し、また日米同盟の結束を強化することを目的としている。

在日米軍輸送計画専門官ジェイク・カリコ氏は、「キーン・ソード25で、C-17への搭載検証が延期されていたが、自衛隊の要請を受け、訓練目的を達成するために今年2月に改めて日程が調整された」と説明した。

今回の搭載検証では、陸上自衛隊第1ヘリコプター団、航空自衛隊中部高射群の隊員が点検や搭載作業要領の確認、C-17輸送機への搭載検証などを行った。また、横田基地から第730航空機動中隊と第374装備即応中隊、ハワイ州パールハーバー・ヒッカム統合基地の第535空輸中隊の空兵も参加した。

カリコ氏は「この二国間の検証は、陸上自衛隊と航空自衛隊の隊員が米空軍のC-17に装備品等を搭載する手順を演練する重要な機会だ」と強調する。

2日間にわたる検証で、陸上自衛隊の隊員がCH-47JAチヌークヘリコプターを米空軍のC-17輸送機に搭載した。また、航空自衛隊の隊員は空自PAC3車両（アンテナマストグループ）とMIM-104パトリオットミサイルシステムを搭載し、米空軍の搭載担当者が合同検査と計画を担い航空輸送搭載検証活動（ATTLA）の基準に沿った搭載作業を行った。

第730航空機動中隊航空輸送専門官エリック・シャー軍曹は「ATTLAは、海外の装備品を含め、米空軍の航空機へ装備品を適切に準備・輸送するための規定だ。我々は貨物の適性を確認し、危険物のチェック、貨物の搭載準備、適切な車両輸送形態の確認を行った」と述べた。

この2日間を通じて、日米の相互運用性が一層強化されるとともに、米空軍の航空輸送を活用した安全かつ効率的な搭載・降載手法を共有する機会を得た。

シャー軍曹は「今回、計14万3000ポンド（約65トン）の車両がC-17に搭載され、降載された」と語る。

航空自衛隊の上級幹部によると、C-17輸送機の活用により、CH-47チヌーク輸送ヘリのような大型装備を迅速に空輸し、機動展開する戦略的能力が飛躍的に向上するという。

シャー軍曹は「同盟国と連携し、支援する能力を高めることは、世界のどこへでも戦力を展開する上で不可欠だ」と述べ、「今回の訓練を通じて、航空自衛隊と陸上自衛隊に、合同検査の要件を示し、手順や搭載計算、搭載作業を実演した。これによって、実際の装備や人員空輸に備えることができた」と続けた。

この搭載検証を通じて、航空機の搭載手順に関する相互理解が深まり、米空軍と自衛隊の協力体制が強化された。これは、災害支援や有事対応の際に極めて重要な要素となる。日米同盟は約75年間にわたり、地域の平和と安定を支える礎となり、今後もインド太平洋地域における共通の安全保障の要として不可欠であり続ける。



(Photos by Yasuo Osakabe)